

大阪女学院大学国際共生研究所は、グローバルな視野に基づき、平和・人権・環境・言語・教育の分野を国際共生の観点から学際的にとらえ、それらの理論的、実践的研究を行うため本年設立されました。研究所の活動は、学内での設定プロジェクトの研究・調査活動や、国内外の研究教育機関との共同研究・調査活動とともに、専門家を招いた講演会やシンポジウムを開催することです。今回の講演会は、研究所開催の第1回の講演会であり、現在の重要な課題を人権の側面から、また国際共生の問題として深く考えてみようとするものです。

大阪女学院大学国際共生研究所主催

講演会『看護師・介護士受け入れーフィリピンと日本を結ぶ視点』

【日 時】 2009年10月16日(金) 18:00~19:30

【場 所】 大阪女学院大学・短期大学校舎 1F 会議室

540-0004 大阪市中央区玉造 2-26-54

最寄駅 JR 大阪環状線玉造下車徒歩10分・地下鉄 長堀鶴見緑地線 玉造駅下車 徒歩3分

【要 旨】 日本とインドネシア、フィリピンとの間での経済連携協定(EPA)の締結による看護師・介護士候補生の受け入れは、これまでにない注目を日本社会から集めてきた。今回はフィリピンと日本の間の人の移動を中心に、移住者とその出身社会、そして日本を含めた移住先社会をケアの担い手の移動がどのように結びつけるのか/つけないのか、を議論してみたい。

【講 師】 小ヶ谷 千穂 氏

ープロフィールー

(現職) 横浜国立大学教育人間科学部国際共生社会課程 准教授

(最終学歴) 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学

(研究テーマ) フィリピンを中心にした現代アジアにおける「移住労働の女性化」の展開と変動についての社会学的分析。

(主な著書・論文)

- ・『『移住労働者の女性化』』のもう一つの現実ーフィリピン農村部送り出し世帯の事例からー 伊豫谷登士翁編著『経済のグローバリゼーションとジェンダー』、明石書店、2001年。
- ・「フィリピンの海外雇用政策ーその推移と『海外労働者の女性化』を中心にー」小井土彰宏編著『移民政策の国際比較』明石書店、2003年。
- ・「いかにして「ケア上手なフィリピン人」はつくられるか?ーケアギバーと再生産労働「国際商品」化(伊藤るりほかとの共著)伊藤るり・足立真理子編著『国際移動と<連鎖するジェンダー>』作品社、2008年。

【対 象】 学内教職員・大学院生・学生、一般参加可

【参加費】 無料

【定 員】 50名(先着順)

【問合せ先】 大学事務局 (担当 田中礼子)

電話 06-6761-9372

FAX 06-6761-9373

e-mail:riicc@wilmina.ac.jp

【申込方法】 住所・電話番号・氏名・所属先をご記入のうえ、e-mail もしくは FAX でお申し込みください。